

令和8(2026)年度下都賀地区小・中・義務教育学校教頭研修会を開催しました

1 期 日 令和8(2026)年6月2日(火) 13:15~16:20

2 会 場 壬生城址公園ホール

3 参加者 管内公立小・中・義務教育学校教頭

4 目 的 一人一人が参画する「本校ならではの」の教育活動実現に向けた学校経営を実践していく上で、学校長の 経営理念を確実に実現させるために教頭としての役割を確認するとともに、当面する諸問題について理解を深め、学校教育のより一層の充実に資する。

5 内容

(1) 開会行事

挨拶 栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所 柿沼 透 所長

下都賀地区市町教育委員会連合会教育長部会代表

下野市教育委員会 石崎 雅也 教育長

(2) 全体会

ア「令和8(2026)年度学校訪問について」 下都賀教育事務所 学校支援課 指導担当

イ「教職員の服務規律の保持」 下都賀教育事務所 学校支援課長

(3) 研修

ア 趣旨説明

イ 講話「特別支援教育の視点に立った支援体制の充実と関係機関との連携」

～一人一人の子どもが主役となる学校づくりを目指して～

講師 西真岡こどもクリニック こどもの心と発達科 連携医療部 膝附 政江 様

ウ 班別協議

テーマ：「一人一人の子どもが主役となる学校づくり」を目指す上での

教頭としての意図的・計画的な働きかけ

参加者振り返りから

- 学校のみで課題を抱え込まない本校のこれまでのアプローチが、方向性として正しかったことを再確認することができた。今後は、担任をはじめとする現場の教職員が孤立し疲弊することのないよう、日常的な声かけやケースに応じた役割分担の明確化を徹底する。組織全体で課題を共有し、多様な専門性を生かした「チーム学校」としての機能性をさらに高めていきたい。
- 授業を含めた学校生活、そこでの支援、保護者との話など、教職員が知識として知っているべきこと、取り組むべきことがあると思う。県の教育ビジョンや下都賀地区学校教育の重点、市の教育計画等でも「安心感」が大きなキーワードになっている。これまでもずっと重視されてきている学業指導ともつながるが、教頭として「つなぎ」役の機能もさらに生かせるよう、教職員にとっても、児童にとっても幸せになる学校づくりに力を尽くしたい。
- 教頭として求められる判断力や管理職としての姿勢について改めて考えさせられた。「教頭が判断し、校長が決断する」という言葉は、学校運営における教頭の役割を端的に示しており、日々の業務の中で自分がどのように判断し、校長の決断を支えるかを意識していく必要性を感じた。

